

平成30年度

社会福祉法人恵正福祉会  
とごしの杜保育園

事業報告



## 1. 平成 30 年度概要

平成 28 年 4 月に開園し、設立 3 年目となり、社会福祉法人恵正福社会の理念「すべての人とともに歩む」に基づき、保育方針、保育目標を掲げ、指導計画を立案し、保育所の運営を進めてきた。今年度は安心安全な環境づくりに加えて、感性豊かな園児を育てる環境づくりと地域に根差した保育園作りを目指した保育を展開してきた。目まぐるしく変化する社会に適応できる保育園の運営を実現するために、各種の協議会や会合に積極的に参加し、情報収集にも努めてきた。

職場内の組織作りとして、法人の方針を受け止めつつ、園の要望を法人に伝え協議を重ねるなど風通しの良い運営を行うよう心掛けた。職員間のコミュニケーションが図れるように会議のシステム作りをし、クラス運営をスムーズに行うためにクラス会議や非常勤会議など設定し、職員の意見を反映して仕事への意欲を高めるような組織づくりを構築するよう努めた。

また今年度は、年度途中から主任が産休に入るため、園運営に支障をきたさないよう、全体リーダー・乳児リーダー・幼児リーダーを置き主任の仕事振り分けて行えるような組織形態を実施してきた。しかし、新たな役割分担を職員全体に理解してもらうには、時間と労力がかかった。

また、姉妹園の人手不足を補うために、応援保育士を 6・7・8 月の 3 か月間 1 名ずつ派遣するなどし、現場職員の負担等当園の保育運営に苦慮する場面もあった。

今年度も更に保育のスキルアップをするために、研修に多くの時間と経費をかけてきた。保育内容の充実と個々の職員の保育力と意欲向上を図るよう努め着実に成果を上げている。今年度は、若い保育士の退職者もなく、次年度に向けて保育力の積み重ねが出来ていくものと期待している。特に中堅層の職員のスキルアップが急務であるが、研修申し込みをしても応募者多数で抽選に漏れてしまうことも多く、次年度も引き続き中堅職員のスキルアップを目標に目を向けていきたい。

保護者に対しては、保護者からの要望意見に耳を傾け、信頼関係を築いていくように、職員間で問題を検討し、速やかに回答し理解・協力を得られるよう努めてきた結果、年度末に行った第三者評価や保育行事後のアンケートに好評価な意見を得られた。厳しいご意見もあったが、次年度に向けてさらに、職員間で話し合い丁寧な対応をしていく所存である。さらに、我園は、住宅密集地の中の保育園ということもあり、近隣住民との円滑なコミュニケーションに配慮し、町会長を通し、保育園の状況を理解して頂くために避難訓練等の際は近隣住民へのお知らせを配布するなどして地域にアピールしていく努力を今年度も心がけてきた。その結果、近隣からの苦情電話は減少し、挨拶をにこやかに交す機会が増えてきているように感じる。今後も引き続き、地域に必要と認められる保育園の存在をアピールしていきたい。

職員の意見を聞き取り、園の方針を伝えられるよう職員と園長・副園長との個人面談を年間 2 回実施した。2 回目の面談は全体フリーの職員も同席し、次年度に向けての意思も確認した。面接前に自己評価、年間目標等を記録するプリントを個々に渡し、記入してもらったが、面談の際に十分活かしきれなかったため次年度は自己評価票の

内容と面談を実のあるものとしてできるように検討していきたい。

保育業務を効率的に進めるために保育ソフト導入を計画し作業を進めてきた。まだ一部の保育業務のみの導入であり、新しいシステムに慣れるためにも時間と労力が必要ではあるが、焦らず一歩ずつ進めていきたい。

## 2. 運営

### (1) 職員(平成30年4月1日現在)

(正規職員)

施設長	1名
保育士	19名
看護師	1名
事務員	2名

(非常勤職員)

保育士	7名
保育補助	7名

### (2) 児童状況 定員 108名

① 開園3年目であり、今年度から5歳児クラスも年間を通じて20名を維持することが出来た。

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
定員	12名	15名	18名	21名	21名	21名	108名

② 月ごとの児童数

- ・0～2歳児クラスは安定していた。
- ・3歳児クラスは6月末1名さらに8月末1名退園し、10月1日1名入園、1月にも1名入園するなど入退園が目まぐるしかった。
- ・4歳児クラスは4月3名欠員であったが、5月に1名と8月に1名入園した。しかし、10月に1名退園し、そのまま2名欠員状態であった。
- ・5歳児クラスは4月～12月は1名欠員であったが、1月から1名入園し欠員ではなくなった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
1歳	15	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	179
2歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
3歳	21	21	20	20	20	19	20	20	20	21	21	21	244
4歳	18	19	19	19	20	20	19	19	19	19	19	19	229
5歳	20	20	20	20	20	20	20	20	20	21	21	21	243
計	104	104	104	104	105	104	104	104	104	106	106	106	1255

### (3) 延長保育事業利用状況

① 日々の延長利用者は5～6名程度の日が多いが、19：30以降は1～2名になる。5歳児クラスの延長児がほとんどだが、不定期に0、1歳児が1～2名入ることもある。

② 事前の利用連絡が無く延長に掛かる特定のご家庭もあった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用延人数	126	133	125	158	131	108	184	159	159	281	148	87	227
内0歳児人数	0	3	9	4	5	0	0	2	5	9	9	0	33

#### 30年度延長保育の延べ人数

時間	19：00まで	19：30まで	20：30まで	合計
人数	661人	514人	285人	1460人
割合	45%	35%	20%	

#### (4) 安全管理・防災・防犯対策

① 毎月1回防災避難訓練の実施をした。昨年度の反省を活かし、出火場所を調理室・事務所・近隣など変えて、避難経路や避難階段に変化を持たせる工夫をした。また、不審者対応の訓練と起震車体験等を訓練に組み込んで今年も計画をして、実施した。

次年度の課題として、いざという時に怪我をせず落ち着いて避難するための防災用品を揃えるよう取り組んできたが、予算の関係でまだ十分に揃えきれていない。次年度も引き続き必要な用品（職員用ヘルメット、園児用避難靴等）を検討し、整えていきたい。避難訓練の方法もマンネリ化せず、職員一人ひとりが有事に備えて適切な判断で動けるよう意識づけできるよう計画実施していく必要がある。

有事に備え、職員召集の体制、施設開放の在り方など今後組織としての体制の整備を検討していきたい。

② 安心伝言板の登録

有事の際の連絡手段として「安心伝言板」を導入しているが、保護者・職員共に未登録者が今年度もいるため、さらに個々に声をかけ、周知・登録の徹底と利用訓練を行い、意識を高めていくために毎月月初にメール送信を行う予定であったが、年に3～4回実施した程度にとどまった。

#### (5) 職員研修

##### 【園内研修】

- ・嘔吐物処理について H30年7月14日（金） 講師：東山看護師
- ・育てにくい子どもたち H30年12月8日（土）  
講師：子ども虐待防止センターアドバイザー高田真規子氏

##### 園内外及び二園合同研修

- ・今年度は保育現場で「実践に活かせる研修」を研修の方針に掲げて2園合同の研修を計画した。

## 【二園合同研修】

新人研修 4月4日（水）とごしの杜保育園3階ホールにて

- ① 救急車の要請の仕方（講師：とうかいどう保育園看護師）
- ② 頭の怪我の種類と仕組み、頭部外傷の対応  
（講師：とごしの杜保育園看護師）
- ③ 保育士の専門性（講師：砂田氏）

第1回 4月14日（土）恵正福祉会本部にて

講師：業務執行理事及び東京支部支部長

- ① 社会福祉法人恵正福祉会の沿革
- ② 法人の組織について
- ③ H. 30年度賃金改善計画について
- ④ 保育従事者として心得ておきたいビジネスマナー

第2・3回 5月12日（土）とごしの杜保育園3階ホールにて

8月18日（土）とうかいどう保育園4階ホールにて

『テーマ』保育者一人ひとりの文化力向上を目指して

講師：おはなしかご 代表 大竹麗子氏

## 【外部研修】

- ・保育士等キャリアアップ特別研修（東京都社会福祉協議会主催）  
6/29・8/29
- ・主任研修「気になる子」（品川区私立保育園連合会主催）9/18
- ・事故予防研修（品川区役所主催）6/26
- ・給食担当者講習会（東社協保育部会主催）6/28・10/19・12/10・2/21
- ・特別支援保育継続研修（品川区役所主催全4回）  
5/24・6/1・/21・7/5・11・9/7・27
- ・乳児・幼児の日誌や連絡帳等の書き方（品川区私立保育園連合会主催）5/23
- ・リスクマネジメント研修（品川区役所主催）7/2・11/7・27
- ・保育におけるリスクマネジメント  
（東社協保育部会私立地区委員会主催）11/9
- ・就学前教育カンファレンス（東京都教育委員会主催）7/24
- ・子どもの虐待を考える（子育て支援センター主催）7/25・9/19・10/17
- ・子どものアレルギー疾患に関する相談実務研修  
（都福祉保健財団主催）8/24・10/24
- ・保育士養成保育課職場企画研修（品川区役所主催）  
保育専門研修「気になる子」5/29・子育て支援研修9/13  
保育力アップ研修「今求められる0, 1, 2歳児の保育」10/4  
保育所における養護の大切さ10/26  
保育者の成長を支える同僚性10/30  
保育園で行う行事の意味を考える11/2

- 職員の資質向上、保育の質の向上につながる園内研究とは 11/2
- 保育所保育指針解説研修 11/5・13
- 3歳児保育・4歳児保育の在り方 11/16
- 保育所における子育て支援 11/26
- 特別支援保育 11/27
- 保育に活かす芸術・デザイン・美の世界 12/19
- 食育講演会 2/14
- ・中堅職員重点テーマ強化研修（都福祉人材センター）  
11/20・21 ・ 12/11・12
- ・結核予防講演会（都健康安全研究センター主催）11/13
- ・私立保育園におけるインフルエンザ等感染症対応研修  
（保育支援課主催）11/16
- ・保育所における感染症マネジメント（区私立支援課主催）2/19
- ・保育施設長研修保育内容編（日本保育協会）11/14
- ・社会福祉事業従事者人権研修（都福祉保健局主催）10/3
- ・初任主任保育士等研修会（厚生労働省主催）2/4・5・6
- ・見えない貧困と子ども食堂 10/30
- ・管理職のためのメンタルヘルス講習会 1/15
- ・福祉職のためのメンタルヘルス講習会（都福祉人材センター主催）2/25
- ・就業継続支援研修（私立保育園連合会主催）1/15
- ・社会福祉法人・施設会計実務関係実務研修 7/5

## (6) 運営の組織化

### 【会議】

- ①職員会議 月1回（夜18:30～19:30 第4木曜日）
- ②月カリキュラム会議（13:30～14:30 第4水曜日）
- ③昼会議（13:30～14:30 最終週を除く毎週水曜日）
- ④クラス会議  
（必要に応じてクラスリーダーが体制作成担当に申請して実施した）
- ⑤非常勤会議
  - ・非常勤職員の勤務時間に合わせて会議実施時間を設定し、同じ内容で2回に分けて実施した
  - ・5月17日と18日に実施し、職員会議の決定事項等非常勤職員にも内容周知するように非常勤ファイルを作るなど改善していった。
  - ・非常勤職員の勤務時間に合わせての設定が難しく今年度は1回のみで開催で終わってしまった。
- ⑥管理者部門会議  
不定期ではあるが、職員会議の前に問題を整理した。  
クラスで起こった問題を議題に上げ、整理調整を行った。

### 【書類管理】

- ①保育に関する書類を各担任が記載後リーダーがチェック修正にて園長に提出するシステムを作ったがそのルートが定着するに至るまで混乱があり時間がかかった。
- ②保育指針の改定に伴い保育課程を見直し、全体の計画作成を園長と全体リーダーが中心となり作成した。  
新保育指針にあった年間カリキュラムの様式を作成し、園児の成長発達と照らし合わせながら、今年度の年間カリキュラムの手直しを各クラスに指示し、1年間かけて年間カリキュラムの内容見直しを行った。
- ③今年度より、書類のIT化（ウェルキッズ）を導入し、月間カリキュラム・日誌・出席簿等をPC入力に切り替えている。今年度は、導入過渡期であり、一部ウェルキッズで管理し、紙ベースでファイリングをしているものもまだ多い。

### 【委員会】

今年度より・給食委員会・保健衛生委員会・危機管理委員会・苦情解決委員会の四委員会を2園で設立し、委員長を立て、とうかいどう、とごしの杜の両園からメンバーを選出し運営を行うこととなる。今年度は、とごしの杜保育園では副園長が危機管理委員会委員長を、園長が苦情解決委員会委員長を受けることとなり、会の運営管理を行ってきた。それぞれの活動内容は支部会議にて報告し、年間活動内容を含め次年度の年度当初に2園合同で研修として職員に報告する運びとなっている。

## 3. 処遇

### (1) 保育

- ①今年度も昨年に引き続き、近隣の公園、小学校、街中散策など戸外に出て日光を浴び、体を十分に動かして遊び、社会のルールを知る機会を持つことができるように十分な職員配置を整えてきた。
- ②開園3年目で5歳児クラスも在籍21名になり、年長児としてのクラス活動も充実してきた。就学に向けて小学校への興味関心を高め、就学への不安を期待に変えるように近隣の保育園及び小学校と連携を取り、交流保育を実施してきた。
- ③幼児（3歳児～5歳児）は外部講師に依頼して教室活動として、英語教室・体操教室（月2回ずつ）を取り入れた保育を実施した。また、5歳児のみ、茶道教室を月1回実施した。
- ④リトミック教室は講師資格を持つ当園職員が講師となり、4月から3歳児～5歳児が月2～3回、5月から2歳児月1回、10月から1歳児が月1回実施をした。
- ⑤朝夕の保育は子どもの人数に合わせ、異年齢の合同保育を実施し、8:30～18:00の時間帯は各年齢に合わせクラス毎に分かれての保育を実施してきた。



⑥養護と教育指針に沿って保育内容も音楽活動、制作活動など各年齢に合わせた保育計画を立案し実施してきた。

⑦外部団体の協力を得て、おはなし会など児童文化に触れる機会を設けた。園児もこあら広場参加の地域の乳幼児も満足度は高く、反応は良好であった。

(2) 子どもの保護者への支援

①年間2回の保護者懇談会を実施し、園からのお願いや園児の園での様子を伝え、保護者の意見や思いを聞き、家庭との連携を図るようにした。

②クラスごとに期間をもうけて、個人面談を実施し保護者と担任で子どもの状況を交換し共通理解をするよう努めた。また、保護者の希望で必要に応じてその都度個人面談を実施し、相互の子どもの成長に寄り添った働きかけができるように心がけてきた。

③児童相談所、品川区家庭支援課、保育課私立支援係、入園相談係の各担当者と連携を相互に取り合っその都度支援に努めている。

(3) 保健

①身体測定 毎月1回

②内科健診年2回（4月、10月）、0歳児健診月1回

③歯科健診年1回（6月）

④眼科健診年1回（7月）

⑤保健だより発行月1回

⑥職員健診（4月）

⑦職員検便（食事に関わる職員全員）毎月1回

⑧職員インフルエンザ予防接種（11月）

⑨保健衛生委員会 毎月1回

⑩感染症発生数

・インフルエンザA罹患数：

11月6名、12月28名、1月12名、2月2名

・手足口病罹患患者数：1月2名、7月28名、8月21名、12月1名

・アデノウイルス胃腸炎：6月1名、10月3名、11月1名

・ヘルパンギーナ：7月1名

・RSウイルス：8月1名、9月8名、3月1名

・ヒトメタニューモウイルス：9月1名、3月3名

・溶連菌感染症：10月1名

・マイコプラズマ肺炎：10月1名

・頭シラミ：1月8名

・伝染性紅斑：3月2名

(4) 給食

- ・給食部門は、とうかいどう保育園と合同で安田物産に法人として委託した。調理はそれぞれの園で実施していく中で、両園で意見の食い違いを生じさせないために今年度も引き続き、双方で話し合い調整する場として給食会議を月1回実施した。会議メンバーには、両園の副園長と保育園現場の意見を反映するため給食委員会担当者と、安田物産担当者と栄養士の2名が参加し、実施した。保育現場と給食提供側で話し合うことで給食内容の充実にもつながってきている。そのことにより職員の食育に対する意識が出てきた。今後も旬の食材を使い、美味しさと楽しさが園児に伝わるような給食の提供が出来るように努めていく。
- ・アレルギー児の給食対応は品川区に準じて行ってきた。「アレルギー児の対応」のマニュアルに従って、医師の診断書をもとに保護者と面談を実施し、給食を提供してきた。
- ・今年度は年度当初から栄養士や会社側の担当者が変わり、その引継ぎがうまくなされず、食数の間違い、異物混入、アレルギー児への提供ミス（調理員が提供したが保育者が事前に気づき誤食はしなかった）等ミスが目立った。調理員の欠員により調理員が入れ替わりここでも小さなミスが目立った。また、食材提供されたパンにカビが生えていたり、発注ミスにより食材購入数が足りず、直接店に走った日もあった。
- ・なぜ、ミスが起こったかその都度検証し、再発防止策を検討し改善を図ってきた。

(5) 主な年間行事

月	日	保育・保健・行事・地域むけ	保護者会
4	6	入園、進級の集い	19日幼児・20日1,2歳児・21日0歳児
5	2	子どもの日の集い	
7	2～	水遊び	
	6	七夕の集い	
	13	夏まつり	
	26	お店屋さんごっこ	
9	14	おじいちゃん・おばあちゃんと遊ぼう会	個人面談
	29	親子で遊ぼう会（運動会）	
10	27	芋掘り遠足	
	31	ハロウィン	
11	7	お芋パーティー	
12	8	おたのしみ会	
2	1	節分の会	
3	1	ひな祭り会	19日幼児・20日乳児

	8	就学祝い会	
--	---	-------	--

#### 4. 地域交流事業

「とごしの杜保育園」の3階ホールに保育園開園と同時に『地域子育て支援ひろば コアラ』として開設して3年目となり、開放日を月曜～金曜の朝10時～午後3時まで設定し、実施してきた。地域の利用者に口コミで広がり、利用数は増えてきている。

また、今年度は、品川区「赤ちゃん木育広場」普及活動に応募し、こあら広場で月1回開催した。NPO法人ウーヴお話し会メンバーによる絵本読み聞かせも月1回実施し好評を得ることが出来た。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用親数	91	88	120	142	177	117	187	245	231	279	284	226	2,179
子ども数	100	88	127	149	180	117	192	252	256	299	335	262	2,357

#### 5. 環境整備

3階会議室兼倉庫とコアラ広場のホールとの境の壁を戸棚に付け替える工事を行い強固なものにして頂いた。会議室側に戸棚が出来、倉庫内の備品、消耗品の整理整頓を行い、同時に舞台用のカーテンも設置し、3階ホールの遊具や備品等の配置替えを行った。また、玄関の掲示スペースを、見やすくなるように『園からのお知らせ』『保健関係のお知らせ』『地域関係のお知らせ』の3コーナーに分けて掲示するように仕切りを作った。保育環境、衛生環境を考え、園児にとってより良い保育実践を行えるように備品消耗品購入計画を30年度も立て、環境整備を行ってきた。また、整理棚に品名を表示し、誰が見てもすぐに必要なものが取れるように現場の意見を取り入れながら進めている。

今年度初めて危機管理委員会で遊具点検票を作成し、3月と9月に点検し、チェックするシステムを構築した。

#### 6. 事故怪我報告

##### ①保育中の事故怪我による受診状況

##### 0歳児

- ・バギーに乗り散歩するためにバギーを発進した際バランスを崩し、座り込み左前歯裏側から出血を確認（11月21日）。歯科医受診し経過観察。
- ・保育室内をハイハイしていてすべり、床に口を打ち歯茎より出血し歯科受診。（6月28日）。2日後再診、以降経過観察。

##### 2歳児

- ・保育手繋ぎ散歩中転倒し、後頭部を打ち頭部外傷。3か所医療用ホチキス止めをし、消毒する（5月17日）。その後5月18日～25日まで傷口を消毒するため通院する。
- ・午睡後発熱によるけいれんを起こし、昭和大学病院へ救急搬送する（1月

25日)。インフルエンザによる発熱であることが判明。

#### 4 歳児

- ・公園内で走っていて他園の園児と衝突し下唇を切る。歯を痛がり歯科医受診するが異常なし。

#### 5 歳児

- ・体操教室のマット運動でくま歩き（四つ這いで片足上げてケンケン）をしていて左手首を内側に巻き込んだまま転倒し、左橈骨尺骨骨折(7月27日)。9月19日完治する。
- ・友だちとぶつかり左下B歯茎より出血あり。歯科受診（12月28日）消毒し、以降経過観察。

※以上、年間の怪我による医療機関の受診があり、その都度職員で事故原因を検証し、再発防止に努めている。

#### ②受診には至らないが各年齢の怪我の傾向

- ・0, 1 歳児クラスは友だちとのトラブルから噛みつきによる怪我が目立ち、クラスで検証し全体職員への報告も行い再発防止に努めた。
- ・2 歳以上のクラスでは、走っていて足がもつれたり、よそ見をしたり、つまずいたりして手足などの擦り傷が多かった。保育の中で、体幹を鍛える等、注意力を促す内容を組み込み、再発防止に努めている。

### 7. 福祉サービス第三者評価受審

平成28年度から3年連続、評価機関「株式会社 福祉規格総合研究所」に依頼して、第三者評価を受審している。89世帯中49世帯が回答し、55, 1%の回答率であった。集計結果が届き次第、その結果を玄関に冊子として置き、対応策を保護者に掲示する運びになっている。

### 8. 苦情解決窓口

- ・保護者の要望・意見を聞き取りやすくするために設置したメッセージボックスを活用して寄せられたメッセージを職員と協議し、早い対応を心掛けている。

- ・メールボックスへ意見苦情が入ることはほとんどなく、直接職員への申し入れしてくるケースが増えている。頂いたご意見は職員会議で検討し、回答をするようにしている。直ぐに回答できない事柄の時には、「いつまでにお返事をいたします」等回答期日をはっきりすることでその後の苦情になることはなくなっている。

- ・住宅密集地の中の保育園という立地から、「園児の声がうるさく迷惑している」「園児の送迎の際の保護者と園児の声がうるさい」「駐輪のマナーが悪い」等の苦情電話が昨年度当初は特定の方からあったが、近隣への挨拶回りをするなど園側からのアプローチで対応をすることで苦情電話はなくなってきた。新たに調理室のダクトの整備不良による騒音の件で苦情が入ったが、区の環境課の方が騒音調査を行い、園側もその数値を確認し、メンテナンスを行い問題解決に至った。

- ・住宅街の保育園であり、今後も近隣の方々と良好な関係を保つよう、送迎の際

の注意点等保護者に向けて園周囲への配慮をお願いするよう継続して働きかけを行っている。